

オレンジセーフティネットの導入について

認知症施策における諫早市の理想の姿

- 【目的】 認知症になっても住み慣れた場所で安心して生活できる地域づくり
- 【目標】 行方不明になっても安全に自宅に帰ることができる地域

支援策① 本人側に身に付けてもらう

- 位置情報確認装置 (GPS) の利用支援
 - ・通常型GPS (ココセコム)
 - ・小型GPS (ミマモルメ)
- オレンジ見守りペンダントの配付



【問題点・課題】

- ・本人が持ち歩く、身に着けることが出来ないケースには対応できない。



支援策② 家族や支援者など周囲の見守りの強化

○オレンジセーフティネットの導入

- ・スマートフォンのアプリを活用して、行方不明となった認知症高齢者等を早期発見・保護する仕組み。



前回の会議により共有された意見

①どのような方に検索協力者になってもらうか？

- ・守秘義務が守れる人
- ・地域の情報を持っている人
- ・散歩やランニングをする人
- ・通学している学生
- ・アプリの操作が出来る人
- ・医療介護福祉関係
(病院・歯科医院・薬局・訪問看護ステーション・介護事業所・グループホーム等施設
職員・交番)
- ・企業(公共交通機関団体・タクシー協会・コンビニ・郵便配達会社・営業職)
- ・住民団体(民生委員・老人会・認知症の人と家族の会・サロン)

②検索協力者を効果的に募るにはどうしたらいいか？

- ・SNS
- ・市報、市のHP
- ・チラシの配布
- ・組織力、団体を活用して募る
- ・学校での周知
- ・説明会の開催

③導入にあたっての課題

	課題	対応(案)	
共通 (検索依頼者 検索協力者)	・要件	検索依頼者 検索協力者	・認知症により行方不明となるおそれのある高齢者の家族、法定代理人、介護サービス計画作成の依頼を受けた者又はその他市長が特に認めた者 ・事業所、その他の団体又は個人で検索協力の意向がある者
	・登録の簡素化		・市のホームページやLINE等を活用
	・安心して検索依頼できる体制		・検索協力者の属性等の公表
	・アプリ操作方法の説明の機会		・認知症サポーター養成講座、認知症SOS模擬訓練の機会を活用した操作方法の説明や実演
検索協力者	・未成年者の登録の可否		・法定代理人の同意等
	・検索協力出来ない時間帯の選択(深夜対応不可等)		・アプリのシステム上、対応不可(業者確認)
	・個人情報悪用など、依頼者に不利益を出さない管理法		・携帯端末に個人情報は残らない仕組み ・申請時に誓約書を取得
	・検索協力に対するモチベーション継続		・表彰等の実施
その他	・偏見をなくすために認知症、地域福祉教育の機会		・認知症サポーター養成講座受講を推奨
	・オレンジセーフティネットの導入に関わる周知		・SNS、市のHP、チラシの配付など